第２学年　　国語科学習指導案　　「絵を見てお話を作ろう」

岩国市立愛宕小学校
指導者　村田　愛

付けたい力…絵から場面の様子を想像し、文と文との続き方に気をつけて、一つ一つの場面がつながるように物語を書くことができる。

１　ねらい

絵とメモをもとに、場面と場面がつながるように物語を書くことができる。

２　準備物

色短冊、ワークシート
模造紙、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ
タブレット型端末

３　評　価

書 絵とメモをもとに場面と場面がつながるように物語を書いている。

言 句読点の打ち方やかぎの使い方を理解して、文章の中で使っている。

絵を見てお話を作ろう

絵と作文メモをもとにお話を書こう。

場めんと場めんが
つながるように

はじめ → なか → おわり

ある日

そこで　すると

それから　ところが

こうして

◎かぎの使い方

「あひるさんのところに
あそびに行こう。」

模造紙

本時の流れ（学習活動・内容　指導上の留意点）

1　これまでの学習をふり返り、本時のめあてをたしかめる。
・ねらいの確認
・単元の見通し
・本時の流れ
○一時間の見通しをもち、意欲的に取り組めるよう声かけをする。

2　作文メモに色短冊を並べる。
・「はじめ」「なか」「おわり」の構成
・場面設定
・お話の流れ
・メモの追加、訂正
○「はじめ」「なか」「おわり」の構成を、メモを指さしながら意識させ、お話全体の流れをイメージしやすくする。
○ペア学習で児童のつまずきを軽減する。

3　場面と場面のつなぎ方を確認する。
・時、場所の変化
・つなぐ言葉の種類
・会話文の書き方（「　」の使い方）
○これまで学習してきた接続表現を活用して書くことや、場面と場面、出来事と出来事のつながりを意識させる。

4　物語を書く。
・「はじめ」の書き出し
・会話文の書き方（「　」の使い方）
・つなぐ言葉の活用
○ペア学習で完成させた組み立てメモをもとに個別に物語を書かせる。
○つまずきのある児童には、ＩＣＴ機器を用い、児童のグッドモデルの良い点を具体的、視覚的に捉えさせる。
○一つの場面を書き終えるごとに読み直させ、場面と場面がつながっているか確認させる。

5　本時の学習をふり返る。
・自己のふり返り
○進度の速い児童の物語を紹介し、良い点を具体的に示す。
○本時のめあてに沿ってふり返りをしやすいように観点を提示する。
○次時の学習に向けて意欲がもてるような声かけをする。

はたらく犬について、「もの知りカード」で伝えよう　わたしの「はてな」　　下松市立花岡小学校　　指導者　Ｔ１　林　隆之　　Ｔ２　福本　和浩

「人を安全にみちびく訓練では、何を教えるのか。」という問いの答えになるよう、だいじな言葉や文を見つけて要約しよう。

〈人間の言うことにしたがう訓練〉

人間の言うことにしたがう訓練は、「カム」、「ダウン」「シット」などの英語で命令します。そして、命令の言葉を少しずつおぼえさせ、そのとおりにできるようにします。

もの知りカード

・言葉をはぶく。
　→たとえば・・・くわしく書いている。
・言葉をおぎなう。
　→そして、また、さらに

⑨　次は、人を安全にみちびく訓練です。

⑩　この訓練が始まると、「ハーネス」という器具が犬の体にとりつけられます。つれている人がハーネスをにぎると、犬の動きがつたわってきます。

⑪　あぶないものの前で止まったり、それをよけて進んだりすることを、くりかえしくりかえし教えこまれます。たとえば、だんだんなわっている所では、つまずいて転ばないように、かならず一度止まります。電柱があれば、つれている人がぶつからないように、上手によけるようにします。

また

⑫　使っている人にとってきけんな命令には、したがわないことも教えられます。たとえば、自動車が走りそうな所で、わざと「ゴー」（進め）と命令し、命令どおりに進むと自動車とぶつかりそうになるという訓練をします。このような訓練をくりかえして、あぶないときは、「ゴー」と言われても、前へ進まないことをおぼえるのです。

〈見直すときのポイント〉
・「何を教えるのか」の答えになっているか。
・～訓練（で）は、～を教える。

○　主　眼

もの知りカードを作るために、「人を安全に導く訓練」についての大事な言葉や文を見付け、要約することができる。

○　準備物

掲示用教材文、もの知りカード
関連資料　付箋

○　評　価

必要な言葉に着目し、「人を安全に導く訓練」について要約することができたか。
（発言・プリント・教材文）

本時の流れ

導　入

一　本時の学習課題をつかむ。
・　もの知りカードの答えとなる要約
（形式段落⑨～⑫）
○　もの知りカードを提示し、答えとなるように要約することを告げる
○　人間の言うことに従う訓練について要約した前時の学習を想起し、要約の仕方に対する学習の見通しがもてるようにする。

二　教材文を読み、大事な言葉や文に線を引いたり、不必要な部分を線で消したりする。
・　「教える」と言う言葉への着目
・　例示の部分の削除
○　他の児童との交流により、線を引いたり、削除したりした理由を言わせ、大事な言葉や不必要な部分に気付くことができるようにする。

展　開

三　「人を安全に導くための訓練」について要約する。
Ｔ　「人を安全に導く訓練では、何を教えるのか」の答えになるよう、要約しよう。
・　主語と文末表現の工夫
・　接続語の使い方
○　書けない児童には、書き出しをヒントとして提示する。

【評価】

終　末

四　自分の要約した文を見直す。
・　問いに対する適切な答え
○　見直しの観点を与え、自分で見直しができるようにする。

五　他の働く犬の訓練について調べる。
・　自分の選んだ本の訓練について書いてある部分の選択
○　見付けた場合は、付箋を貼り、第三次での「もの知りカード」作成に生かせるようにする。

「中心となる人物の気持ちを考えながら読んで感想を伝え合おう　～サーカスのライオン～」（３年生）

周防大島町立明新小学校　　指導者　塩田　徹夫

１　主眼

表現されていないじんざの目についての表現を考えることを通して、じんざの強い思いについて自分なりの読みをつくることができる。

２　指導上の留意点

①第二次では、繰り返し用いられる目の表現に着目して、それぞれが、じんざのどのような心情を表しているのかを叙述に基づいて読み取る学習を展開するが、本時のように、目に関する表現がない場合でも、その表現を考えるよう促すことで、じんざの気持ちを想像することができるようにしたい。

②日記を書く際は、友達と交流して読み取ったじんざの気持ちを書き込むだけでなく、「じんざのことをどう思うか」「じんざに伝えたいことは」等もあわせて書くよう促し、「じんざの心の中を語る会」での読みの交流につなげたい。

③授業の終わりには、「学習のめあて」と「友達の考え」についての振り返りを書くよう促すことで、自分の読み深めを自覚し、共に学び合うよさと楽しさを共有することができるようにする。

評価

話し合いで読み深めたことを基につくった自分なりの読みを日記に表現している。

「サーカスのライオン」　川村たかし

じんざの気持ちを考えながら読んで感想をつたえ合おう

めあて

この時のじんざが、どんな目をしていたかを想ぞうして、じんざの気持ちを考えよう。

必死な目

燃える目

気合いの目

おそろしい目

ものすごい目

・・・目

ライオンの体がぐうんと大きくなった

古くなったおりをぶちこわして

ひとかたまりの風になってすっとんでいく

力のかぎりほえた

ウォーッ

＊上記の目の表現の根拠となる叙述（右記）が出れば、合わせて掲示していく

＊じんざの気持ちも適宜板書する

金色に光るライオン

なぜ、じんざは命がけで男の子をたすけようと思ったのか。

心をすくってくれた　昔の自分をとりもどせた

心から心配してくれた　大好きだから守ってあげたい

おれにしかできない

じんざの気持ちを日記に書きためて、最後の場面、だれも知らなかった“じんざの心の中を語る会”をしよう。

ふりかえり

・学習のめあてにたいして

・友だちの考えについて

本時の流れ

①本時の課題をつかむ

これまで、じんざの目に注目して気持ちを読み取ってきました。この場面に、じんざの目についての表現がありましたか。

◆「両手を目でおさえた」という叙述に着目している児童の発言を取り上げ、第二場面の目の表現と比較するよう促すことで、児童がじんざの気持ちの変化に問いの意識をもつようにして、本時の課題を提示する。

②課題について自分の考えをワークシートに書き、話し合う。

文中の言葉を手がかりにして、じんざの目を「○○な（の）目」と表現しましょう。そして、そのときのじんざの気持ちを考えてワークシートに書きましょう。

◆根拠となる叙述とともに、そこから想像できるじんざの気持ちも述べるよう促すことで、じんざの「男の子を助けたい」という強い思いに気付くことができるようにし、次の発問につなげる。

なぜ、命をかけてまで男の子を助けたかったのかな。

◆これまでの日記を振り返るよう促したり、じんざの気持ちの変化を記録した掲示物を見せたりすることで、じんざが命をかけた理由について考えることができるようにする。

③じんざの気持ちを思いながら日記を書き、グループで読み合う。

勉強したことをもとに、この場面のじんざの気持ちを自分の日記に書きましょう。

◆書けない児童には、板書から納得したじんざの気持ちを一つ選ばせ、それを基に書くよう促す。

④本時の振り返りをする。

第５学年　国語科学習指導案　「和の文化を受けつぐ―和菓子をさぐる」

岩国市立愛宕小学校
指導者　坂本　祐介

付けたい力…伝えたいことを明確にするために、内容の構成を考えて発表の原稿を書くことができる。

1　ねらい

調べたことをもとに、発表の内容の構成をつくることができる。

2　準備物

山下さんのグループの発表構成ワークシート、色短冊、拡大ワークシート・短冊

3　評価

伝えたいことを意識して、事柄が明確に伝わるように発表の構成や必要な資料を考えることができたか。

和の文化を受けつぐ

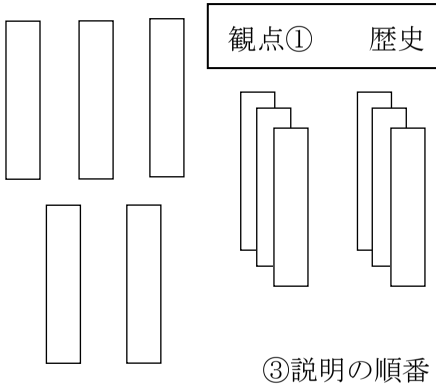
発表の構成と、説明に必要な資料について考えよう

山下さんのグループ発表の構成（ｐ１５５）

・時間配分
・説明の内容
・資料の選択
・役割決め

発表の構成をしよう

観点①　　歴史



グループの役割決め

グッドモデル

・内容がうまくまとめられている。
・資料が使われている。
・決められた時間内での発表。

本時の流れ（学習活動・内容・指導上の留意点）

1　これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。
・前時までの学習の振り返り
・めあての確認
・本時の流れ
○山下さんのグループ発表の構成を提示し、本時の流れをイメージさせる。

2　説明の内容、必要な資料を整える。
・時間配分
・内容と資料の取捨選択
・内容の構成
・説明の順番
○構成を工夫させるために、内容の選択・組み合わせ・順番に着目させる。
○バッドモデルを提示し、説明の順番を意識させる。
○説明する内容に応じて、なるべく多様な種類の資料を用いるように促す。
○３グループに活動の結果を発表させる。

3　発表の構成を見直し、説明する分担と資料を用意する分担を決める。
・組み合わせた短冊の順番
・分担決め
○再度時間配分に着目し、組み合わせた短冊の中での順番を決めさせる。
○グループの中で、前半と後半に発表する組を決めさせる。グループ全員に説明の担当をもたせる。
○グループの中で司会をたてさせる。
○２グループに活動の結果を発表させる。

4　本時の学習の振り返りをする。
・自己の振り返り
・次時の学習の確認
○グッドモデルを紹介し、児童の意欲をもたせる。
○次時の学習を確認し見通しをもたせる。

和の文化を受けつぐ―和菓子をさぐる

下松市立花岡小学校　　指導者　　石﨑　光恵

○　主　眼

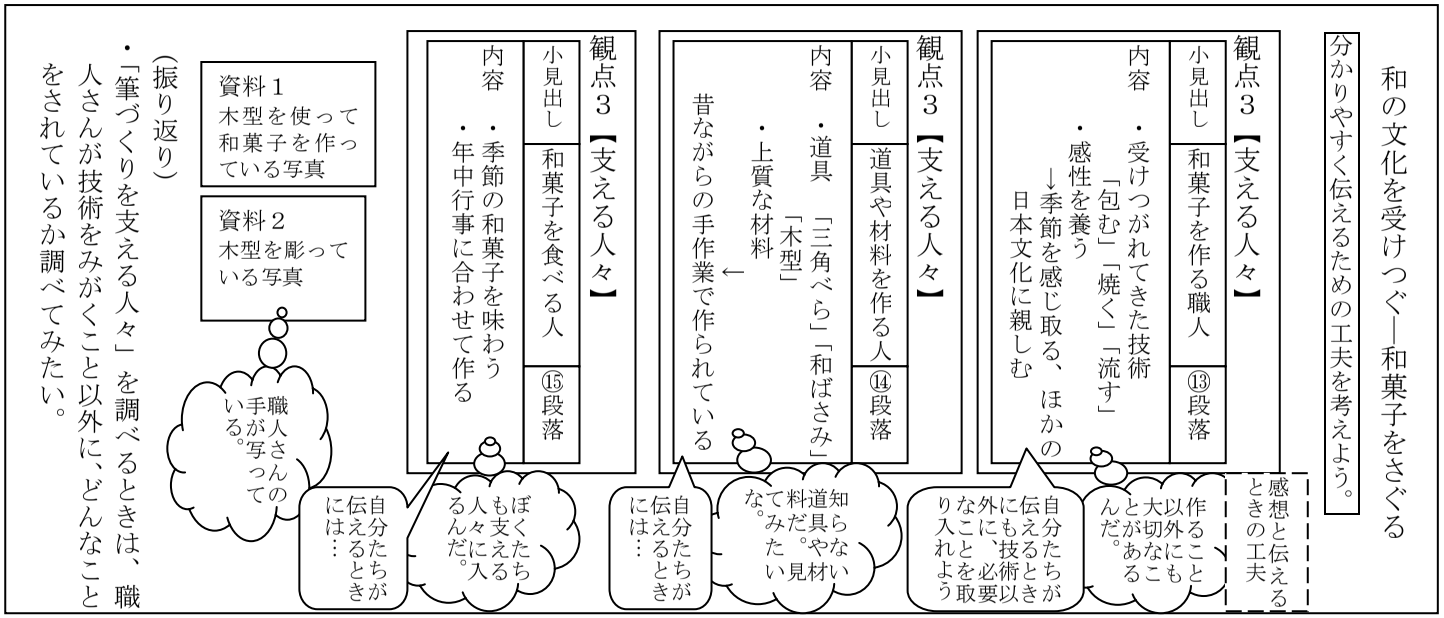
筆者の考えや説明の仕方を読み取ることで、分かりやすく伝えるときの工夫を考えることができる。

○　評　価

【ア】観点や構成に着目して、内容を的確に押さえることができたか。　　（読み取りカード・発言）

【イ】筆者の表現や資料の使われ方を見て、自分の考えを明確にしながら読むことができたか。

（ノート・発言）



本時の流れ	導　入	展　開	終　末
	一　本時の学習課題をつかむ。 ・形式段落⑫～⑮の内容 ・観点３ ○　文章構成図を提示し、前時の学習を想起できるようにする。 ○　筆者の説明方法に着目しながら音読させる。	二　読み取りカードをつくる。 ・和菓子の文化を支える人々 ・小見出し ○　小見出しを書き、内容を短く箇条書きにまとめることで、並行読書の際に自分が調べたことを簡潔に書き出すことができるようにする。【ア】 三　本文を読んで、自分の考えや感想、調べてみたいことを吹き出しに書く。 T　相手に分かりやすく伝えるための工夫を考えよう。 ・筆者の工夫 ・自分ができる工夫 ○　初めに読み手としての感想を書くことで、自分たちが調べるときに相手意識をもつことができるようにする。 ○　自分が伝えるときにはどんな工夫ができるかを書かせることで、並行読書における読む視点を整理できるようにする。【イ】	四　本時を振り返る。 ○　本時で学んだことから、次の時間の並行読書で何をくわしく調べたいかを書くことで、次の活動に生かすことができるようにする。

板書型指導案

じんぶつと自分を　くらべて読もう ～　わたしは　おねえさん　～

美祢市立伊佐小学校　指導者　村田　淳一

わたしはおねえさん

（じけん）
出しっぱなしのノートに
二さいになったいもうとの

（しゅご）
かりんちゃんが
えんぴつで　何かを

（じゅつご）
書きはじめた。

（め）
すみれちゃんは、えらいおねえさんになれただろうか。

かりん、何してるの。

おどろいて

もう、かりんたら、もう。

半分くらい、なきそう。

もう半分、おこりそう。

←

なきたいのか、おこりたいのか。

ぐちゃぐちゃのもの

何よ、これ。

わけがわからない。

どうしてくれるのよ。

お花、これがお花なの。

落書き

コスモスの花

もういちど、ノートを見ました。

じっと。ずっと。

本時の流れ

①めあての確認と今日の話の発端をつかむ。

すみれちゃんがいない間に、部屋ではどのようなことが起こっただろうか。

・かりんちゃんが落書きをした。
・かりんちゃんが大切なノートに落書きをした。

（主語と述語の確認）

②すみれの気持ちを考えよう。

すみれちゃんは、どんな気持ちなのだろう。

・びっくりした。
・まさかと思った。
・しまった。

←

・泣きそうだし、怒りそう。
・自分の気持ちがよく分からない。
・どうしたらいいのか分からない。

←

・何でもいいけど。
・どうして書いたの。

←

・花には見えないよ。
・落書きにしか見えないよ。

③もう一度ノートを見ているすみれちゃんの気持ちを考えよう。

すみれは、どうしてもう一度ノートをじっとずっと見たのだろう。

・なんだろう。ひょっとしてコスモスの花。

１主眼

すみれの言動から、かりんの書いた落書きに対するすみれの気持ちを読み取ったり想像したりする。

２指導上の留意点

①前時の学習から、すみれは、えらいお姉さんになることを目標にしていることを確認する。
②じっと、ノートを見ているすみれの気持ちを、すみれの立場になって想像する。
③もう一度ノートを見たときのすみれの気持ちは、初めてノートを見たときと変わっているかどうかを想像させる。
④ノートに落書きをされたことに対するすみれの気持ちの変化から、えらいお姉さんになれたかどうかを予想させる。

３評価

①会話文の前後の記述から、すみれの気持ちをとらえることができたか。
②もう一度ノートを見たときのすみれの気持ちを想像し、友達と話合うことができたか。

物語を味わい、物語の「すてき」を伝え合おう　「ごんぎつね」　２次４時（６／１０）　山口市立小郡南小学校　指導者：Ｔ１　中原美穂　Ｔ２　中重利紀

1　単元名　　物語を味わい、物語の「すてき」を伝え合おう
　　「ごんぎつね」

2　ねらい　ごんの償いの変化やごんの行動から、ごんの兵十への心情の変化を想像することができる。

3　準備物　ごんぎつねノート・場面絵・センテンスカード

4　学習過程

①　本時の学習課題をつかむ。

②　４・５場面のごんの行動から、そのときの気持ちを想像する一人学びをする。

③　ごんの心情を話し合い、ごんが家の中に入った理由を考える。

④　本時の学習の振り返りをする。

5　指導上の留意点

①　償いの表から、ごんが家の中に入ったことに気付かせ、ごんの気持ちの変化に興味をもたせる。

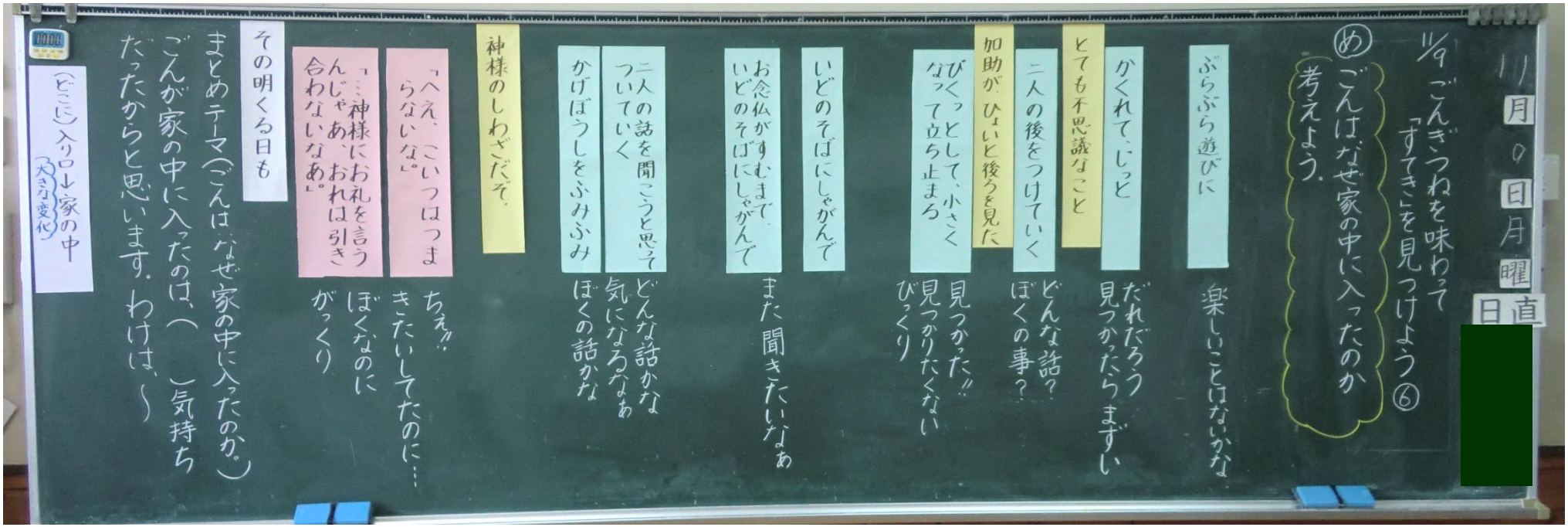
②　ごんの行動にサイドラインを引き、ごんの気持ちを想像する一人学びをさせる。

③　心情の変化をフリートーク形式で話すことで、ごんの気持ちの変化に気付かせる。

④　字数制限の振り返りを書かせる。今日の『すてき』を意識して書かせるようにする。

6　評価

○　ごんの行動から、兵十への心情の変化を想像することができたか。



美祢市立伊佐小学校　第４学年　国語
物語を読んで、友達に紹介しよう　「プラタナスの木」

指導者　佐藤　恭治

１　主眼

心に残った言葉や場面の移り変わりに目を向けることで、物語の感想を一文で表現することができる。

２　指導上の留意点

①音読をしっかりすることで、あらすじをつかませる。
②心に残った言葉や表現をノートに書かせる。
③物語の初めと終わりで変わったことと変わらないことに目を向けさせる。
④自分の言葉で表現させる。
⑤紹介カードを作ることを考えさせておく。

３　評価

【言語】心に残った言葉や表現をもとにして、感想を一文で書けたか。
【関意】自分の考えをもち、友達の文と比べて、よりよい表現を考えようとしたか。

プラタナスの木　　椎名　誠

めあて
自分の感想を一文にまとめよう。

あらすじ

マーちんたち仲良し四人組はプラタナス公園で・・・・おじいさんと出会い、・・・・台風によってプラタナスの木はなくなってしまった。・・・・枝や葉の代わりになろうと考えた。

心に残った言葉

・根に支えられている
・ぼくたちがみきや枝や葉っぱの代わりだ。
・きっとまた、おじいさんにも会える。

感想

・プラタナスが芽を出したら、またおじいさんに会えるね。
・枝や葉っぱになったら、いい気分だね。
・ぼくも、木の代わりになりたいな。

本時の流れ

①音読をし、あらすじをまとめる。

登場人物や場面の変化に目を向けよう

②本文から、心に残った言葉、表現を見つける。

好きな言い方、言葉は？いいなと思ったら、ノートに書こう。

③自分の感想を一文で書こう。
・主人公の気持ちも考えさせる。
④友達と比べてみよう
・いい表現を参考にさせる。

美祢市立伊佐小学校　第６学年　国語科

「鳥獣戯画」を読む

指導者　唐崎　麻美

1　主眼

筆者の着眼点・評価語彙・表現の工夫を生かして、『鳥獣戯画』の絵について解説文を書くことができる。

2　指導上の留意点

① 予習で蛙の絵の解説文を書いてくることで、本時のめあてを意識できるようにする。

② グループで話し合う活動を通して、場面の様子をとらえ、自分が解説したい部分が見つかるようにする。

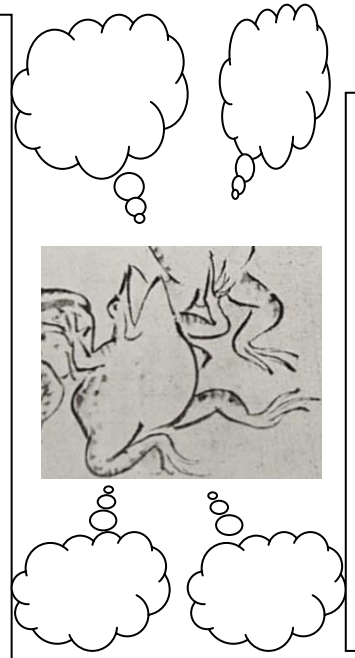
③ 筆者の表現の工夫が意識できるよう、丁寧に確認したり、授業の前後で自分の変容が見えるワークシートを作成する。

3　評価

筆者の着眼点・評価語彙・表現の工夫を生かして、『鳥獣戯画』の絵について解説文を書いているか。

め

筆者の表現の工夫を参考にして『鳥獣戯画』絵巻の解説文を書こう。



（大切）

① 見る場所や見る方法を表す表現＝筆者の着眼点
・動物の体の線・表情・動き・体のパーツ・筆遣いなど
・形・大きさ・太さなど

② 読み取ったことや感じたことを表す表現＝筆者の評価語彙集
・激しい・おかしい・楽しい・見事だ・自然だ
「さも～のように」「さすが」「好ましい」「優れている」など

③ 筆者の表現の工夫
・書き出しの工夫
・文末の工夫（体言止め・常体）
・読み手を引き付ける言葉の工夫
「～ごらん」「～かな」「どうだい」「う、きっと」
・読み取ったことを表現する方法
「見える、感じる、聞こえてくる、伝わってくる」

本時の流れ

① 予習してきた解説文を発表する。

どんなことに気を付けて解説文を書きましたか。

② 本時のめあてを確認する。
・もっと相手に伝わりやすいように書きたいな。

③ 筆者の着眼点や評価語彙、表現の工夫を確認する。

筆者の工夫にはどんなものがありましたか。

・体言止めがあったな。
・書き出しの工夫があったな。
・擬声語や会話文があったな。

④ 書き出しを工夫して書こう。
・会話文や擬声語を入れて書こう。
・工夫は分かるけど、実際に書いてみると難しいな。

⑤ 二つの場面を選んで解説文を書く。

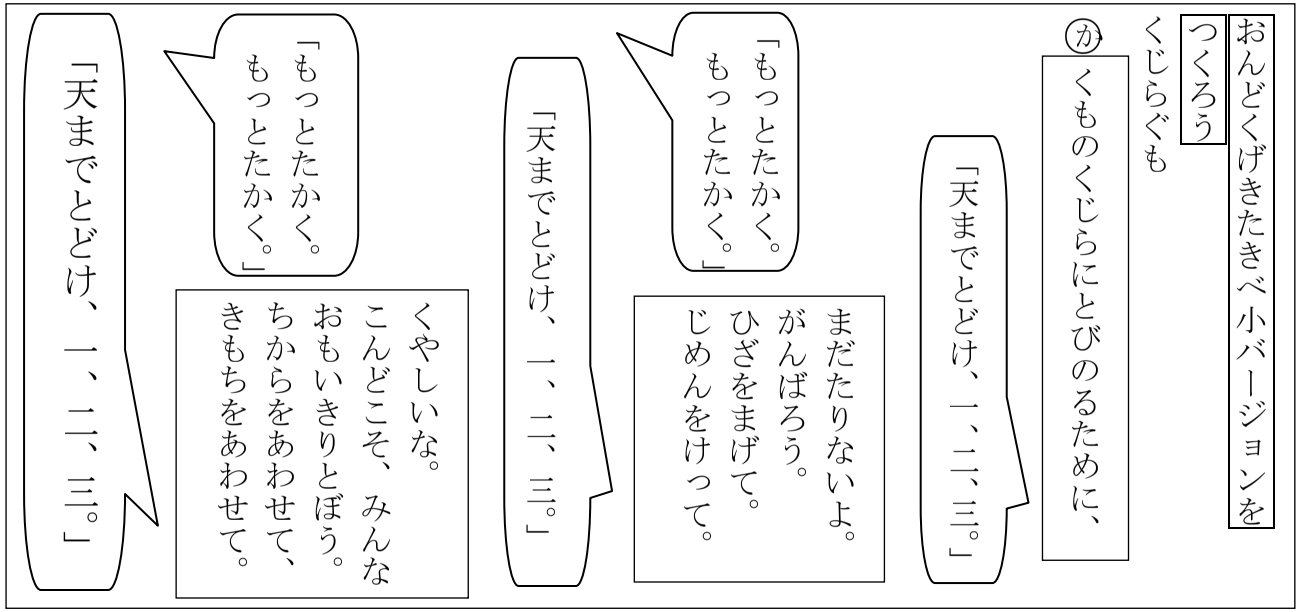
筆者の工夫や評価語彙を使って解説文を書きましょう。

・工夫を入れるのは難しいな。
・友達と読み合うと、違う書き方で面白いな。

板書型指導案　下関市立滝部小学校　第１学年国語

単元名「くじらぐも音読劇～滝部小バージョンをつくろう～」教材名「くじらぐも」（本時　第二次３／５）

平成２７年１０月３０日（金）第５校時　授業者　松田　陽子



本時の流れ

①声に出して三場面を読み、本時の学習課題を確認する。
・「くじらぐも」の投影　（五分）

②どんな音読の工夫ができるか、理由を付けて発表する。
・動作化
・三回の繰り返し　（十分）

③二回目と、三回目のジャンプをする前に話した言葉を想像し、書き込みノートに書く。
・会話文の視写、自分の言葉（五分）

④「子どもたち」の会話を発表し、話し合う。
・文脈との整合の検討　（十分）

⑤子ども役になりきって、音読の練習をする。（十分）
・自分たちで考えたセリフの工夫

⑥課題に続けて、国語日記を書く。
・分かったこと
・今後生かしたいこと　（五分）

１　主眼

動作化を通して、「子どもたち」と「くじらぐも」の様子が聞く人に伝わるように声の大きさや速さを工夫し、音読することができる。

２　指導上の留意点

①「くじらぐも」を投影して、児童が物語の世界に入りこむことができるようにし、徐々に声を大きくすることによって、登場人物の気持ちの高揚が表れるような読み方の工夫を考えることができるようにする。

②考えたことを書く活動では書き込みノートを取り入れ、各自の考えをもって話し合いに参加できるようにする。【教材との対話】

③短く区切ってみんなに呼びかけるように発表するように促すことで、本文を基に考えたことや音読の工夫の理由を、分かりやすく伝えることができるようにする。【友達との対話】

④毎時間振り返りの場を設定し、国語日記に授業で発見したことを書かせ、今後の学習に生かすことができるようにする。【自己との対話】

３　本時の評価

想像を広げて会話文を付け加え、場面の様子がよく分かるように音読することができたか。（音読・発言）

長門市立明倫小学校　６年　国語　**単元名**：読み取ったことや感じたことを表現しよう　この絵，私はこう見る　　指導者　山 村 義 弘

主　眼　表現を工夫しながら，絵から読み取ったことや感じたことを関連づけて文章に書くことができる。

ホワイトボード

見る場所や見る方法を表す表現
・――を見ると、
・――に目を向けると、
・――して見てみると、
・――だけに注目すると、

読み取ったことや感じたことを表す表現
・見える
・感じる／感じられる
・表れている
・読み取れる
・受け取る
・――ではないか。
・――だろうか。
・――かもしれない。
・――にちがいない。
・――のようだ。

教科書の記述例
森は、緑や赤の植物でいっぱいだ。おくに目を向けると・・・

黒　板

この絵、私はこう見る

絵から読み取ったことや感じたことを友達に伝わるように工夫して文章に書き上げることができる。

◎前時のまとめ
・書き出しは、自分の考えや絵にかいてあるものを文章にすることから始めるとよい。呼びかけから始める方法もある。
・見る場所、方法→読み取ったこと→感じたこと　の順で書くとよい。
・「見える」など表現の例を使うとうまく書ける。

◎よい文章のポイント
・書き出しの工夫
・見る場所や見る方法を表す表現がある。
・読み取ったことや感じたことを表す表現がある。
・詳しい描写、呼びかけ

◎気をつけること
・主語と述語の関係
・文体の統一
常体と敬体
・二〇〇字程度

◎まとめ
・「だけに注目すると」「見える」「にちがいない」などの表現を使うと、分かりやすい文章を書くことができる。
・絵の見方が伝わる文章は、読み取ったことと感じたことが関連づけて書いてある。

ホワイトボード

教師の記述例
緑が深いジャングルの中。黒とオレンジのサルがいる。黒とオレンジのサルは、きっと・・・

鳥獣戯画を読む
もう少しくわしく絵を見てみよう。まず、兎を投げ飛ばした蛙の口から線が出ているのに・・・

授業の流れ・指導上の留意点

①課題と見通しをもつ
・ノートを読み返し、絵から読み取ったことや感じたことを確認した上で本時の課題を知らせ、学習のゴール地点がイメージできるようにする。

②よりよい文章のポイント（評価の観点）を確認した後、文章を書く。
・よい文章の評価の観点を示して全体で確認する。
・文章の書き方として満たしておかなければならない条件を示して確認する。
・気軽に書けるように文章は短冊形百字詰め原稿用紙に書き、B4サイズのラミネートシートにはっていくようにする。
・文章が書けていない児童には、書き出しの文章を与えたり、会話を通して絵から読み取ったことなどを聞き出したりして作業が進むようにする。

③よい文章のポイントに沿って自己評価し、必要な場合は加筆修正する。
・線を引いたり、マークしたりしながら評価の観点に沿って文章を読み返し、必要な場合は加筆修正するように促す。
☆他者に伝わるよう表現を工夫しながら、絵から読み取ったことと感じたことを関連づけて文章に表すことができている。（評価）

④ペアで評価し合い、よさを共有する。
・評価の観点と、満たしておかなければならない条件にそって文章を読み合い、自他の文章のよさに意識的になれるようにする。

⑤評価の高い文章を知り、そのよさを全体で共有する。
・児童がよい評価をしたものの中から何点か選び出し、価値付けをしながら紹介する。そうすることによって、よさを全体で共有できるようにする。

⑥まとめとふり返りをする。
・学習を通して分かったことやできるようになったことをまとめとして記述し、それぞれの中にしっかり残るようにする。
・学習への取り組み方の観点から授業を振り返ることによって、自他のよさに気づくことができるようにする。